

# NCGM PRESS



国立研究開発法人  
国立国際医療研究センター病院  
医療連携ニュース

National Center for  
Global Health and Medicine Press  
Vol.2  
March



## NCGM150 周年事業と日本外科学会



NCGM 理事長  
**國土典宏**

**今**年は明治150年ですが、実は私共国立国際医療研究センター (National Center for Global Health and Medicine: NCGM) も創立150周年を迎えます。NCGMの前身は戦後の国立東京第一病院、戦前の陸軍病院で、さらに歴史を遡ると戊辰戦争の傷病軍人を診療するために明治元年に設けられた兵隊仮病院まで起源を辿ることができます。明治150年にあたって明治以降のわが国の歩みを振り返り、明治の精神に学び未来に向けて日本の良さを再認識しようという運動があります。NCGMも、時代の流れに合わせて様々な変遷を遂げながら、必要な医療や研究成果を国民と世界に提供しつづけて、創立150周年を迎えることができました。これを機にNCGMは、今までの皆様への感謝の気持ちを伝えるとともに、今後、さらに皆様に親しまれるセンターとなるよう記念式典等の事業を行うことになりました。

NCGMに関連のある最も著名な人物は森林太郎(鷗外)先生でしょう。森林太郎先生は明治14年に東京大学医学部を卒業し、衛生学を志しながら軍医としてNCGMの前身である陸軍病院に勤務しました。その後ドイツ留学などを経て第7代、第12代陸軍軍医学校長、軍医総監(明治40年~大正元年)となり、いわばNCGM前身のトップに立たれた方です。NCGMセンター病院1階の資料展示室には森林太郎先生が使用したといわれる執務机が今も保存展示されています(図1)。ドイツに代表される西欧医学・文化を学びながら日本の良さを見つめ続けた森林太郎先生の「明治の精神」こそNCGMが大切にすべき伝統で

あると考え、先生の肖像を配した150周年記念ロゴを森家のご許可もいただいて作成しました(図2)。12月の記念式典に向けていろいろな事業を計画しております。詳細が決まり次第ご案内いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

この事業に先立ち、私こと4月5日~7日の日程で東京国際フォーラムにて日本外科学会を主催することになりました。日本中から約15,000人の外科医が一堂に会する大きな学会ですが、NCGMとの共同企画として「グローバルな世界へー外科医の国際医療協力」というシンポジウムを4月6日午後1時に東京国際フォーラムのホールAにて開催いたします。世界で活躍している外科医のお話を若い外科医だけでなく多くの市民の皆様にも聞いていただきたいと思っております。参加は無料ですが事前登録をお願いしておりますので下記からご登録ください。



図1



図2

### 参加申込 [予約制]

国立国際医療研究センター (NCGM)  
国際医療協力局イベント情報

●またはこちらのフォームから  
<https://goo.gl/forms/IDa8CTxP5zCRyiMr2>



この1年の  
絵画

前衛芸術家  
草間彌生



© YAYOI KUSAMA

### みんなは平和を求めている 2013

Yayoi Kusama

幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。1973年に帰国後も全世界を飛び回り活躍中。美術作品の制作発表を続けながら小説、詩集も多数発表。2016年に文化勲章授賞。2017年より、ワシントンDCのハーシュホーン美術館彫刻庭園を皮切りに、北米ツアーが巡回中。



新任のご挨拶

Introduction



泌尿科診療科長  
藤村 哲也

この度、東京大学大学院医学系研究科 泌尿器外科学教授に転出しました久米春喜先生の後任として、平成30年1月1日付で泌尿科診療科長に赴任しました藤村哲也です。私にとって NCGMは、2000年から2004年まで4年間お世話になり、長女、次女の立ち合い出産をした思いで深く愛着のある病院です。その後、東京大学で医局長、講師(外来医長、病棟医長)、准教授を経て再び着任しました。どうぞよろしくお願いいたします。

14年ぶりのNCGMは入院棟、外来棟が一新されたばかりでなく、非常に働きやすい環境になっており日々感謝しているところです。手術部は麻酔科医、看護師のチームワークが良く、定時手術の運営、緊急手術の対応と日々感謝しているところです。外来業務も看護師、クラークとの一体感のお陰でスムーズに診察できています。さらに、病棟看護師のフットワークも良く入退院の入れ替えが多い泌尿器科にとって貴重な存在です。

さて、今ではロボット支援下手術は珍しいものではなくなりました。隣の韓国には約40台のダビンチサージカルシステムが導入されているのに対して日本は約260台のダビンチを有し、世界第二位となっています。この2018年4月には膀胱癌に加え、外科、婦人科領域の手術でも新たに12術式の保険収載が決まり益々広がっていくものと思われます。私は2010年に当時ロボット支援下手術7000例以上の実績を誇る米国Henry Ford Hospital (自動車メーカーのFordとゆかりのある病院)で手術研修を行い、Mani Menon先生の指導を受けてきました。その後、2011年8月

に当時本邦38台目のダビンチが東大病院に導入され2011年11月1日より自主臨床試験としてロボット支援下前立腺全摘除術が開始されました。2012年4月にロボット支援下前立腺全摘除術、2014年4月にロボット支援腎部分切除術が保険収載され、前立腺630例、腎癌60例を経験してきました。ロボット支援下前立腺全摘除術は治療切除率、再発率、尿禁制、男性機能温存などの手術のクオリティと後進の指導・教育を両立できる素晴らしい術式です。腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術もNCGMで新規導入しています。

膀胱癌に対しても自費診療でロボット支援下根治的膀胱全摘除術を行ってきました。膀胱全摘除術は泌尿器科手術の中でも比較的手術時間が長く、出血量が多く、合併症の多い手術です。ロボット支援下根治的膀胱全摘除術は完全に体の中で尿路変更術を行うことが可能で、出血量も少なく、合併症も少ない術式です。開腹の根治的膀胱全摘除術は年間4480例実施されているのに対して、ロボット支援下根治的膀胱全摘除術はこれまで東京都内で4施設、日本では150例しか実施されていません。私はこれまでの経験を生かしてNCGMをhigh volume centerとして成長させ、患者さんの健康増進に貢献できればと考えています。

そのほか、東大病院の排尿障害の治療もおこなってきました。女性の膀胱癌、子宮脱、子宮摘出後の腔断端脱などの骨盤臓器脱における修復術、女性の尿失禁に対する尿道スリング手術、男性の尿失禁に対する人工尿道括約筋埋め込み手術も得意としています。お困りの方々がいらっしゃいましたらぜひご紹介ください。

NCGM 歴史探訪 ①

戊辰戦争と仮病院

1868年9月、江戸は東京と改称されました。戊辰戦争の最中でしたが、戦線は東北地方に移っていました。官兵の駐屯地は横浜であり、病院も同地にありましたがこれを閉鎖し、収容患者は江戸下谷に移送されました。のちに「東京府大病院」と呼ばれ、現在は東京大学医学部となります。

この「大病院」は一般市民の診療も行っており不都合があったようで、傷病兵用に仮の病院が設立されました。

【参考文献】東京第一衛戍病院(1913)『東京第一衛戍病院沿革略史』、陸軍軍医学校(1936)『陸軍軍医学校50年史』、小川鼎三(1964)『医学の歴史』中央公論社、黒澤嘉幸(1994)『山下御門内仮病院』、『日本医学雑誌』40(3) P.281~292

1868年10月に山下門内(現在の帝国ホテルのあたり)に設けられた「兵隊仮病院」がNCGMの前身です。

当時、皇居を取り囲んで陸軍の諸機関が次々に整備されていきました。前述の病院を含めて記録に残る限りで1873年までに8個の仮病院が設置されました。しかし、仮病院という名の通り、一時しのぎの施設だったようです。設置及び閉鎖の日時を除き、ほとんど記録が残っていません。



左/当時の軍医の制服(中尉相当) 右/当時の軍医の制服(大尉相当)



医療法人社団 若水会  
牛込台  
さこむら内科

## 迫村泰成



1958年(昭和33年)先代院長(迫村若一郎)が開業し、まもなく60年になります。私は2003年(平成15年)に継承し、2005年に旧病院を建て替え、現在の姿になりました。それまでは古い木造家屋と鉄筋建造を結んだハイブリット構造で、有床診療所でした。当時、私は大学病院循環器内科に勤務しながらアルバイトで当院の病棟を手伝い、高齢者の看取りなどを多く経験しました。

当院の自慢、井戸が湧く医院は珍しいかもしれませんが。旧病院を建て替える際に、使われていない古井戸があることに気づきました。堆積していた石などを除去すると、地下水があります。法人名の若水会にちなみ、これを「若水」と密かに呼んでいます。残念ながら飲用には適さない水質ですが、汲み上げた水を医院前の池に流し込み、近所の子供たちが緑日でゲットした金魚や、釣ってきたヘラ鮒などが賑やかに泳いでいます。手前に浅い池があり小さなヌマエビやメダカがいます。啓蟄のころにはヒキガエルが産卵しオタマジャクシが群れをなしています。若水を用いて春にコシヒカリの田植えを行い、秋には稲穂が垂れます。米はほとんど雀に食べられてしまいますが、そうした光景は医院を訪れる患者の郷愁をかき立てるようです。写真は毎年7月に神楽坂で行われる阿波踊り大会

に医師会から「新宿白衣連」として出演しています。

新宿区は独居老人の比率は3世帯に1世帯と23区内では最も多い地域です。病院への通院が大変になると近隣の開業医の外来へ、さらに通院困難になると在宅医療を希望される方が増えています。フレイルの患者はぜひ、新宿区医師会ホームページにあるPDF版「かかりつけ医名簿」をご覧ください。近隣の開業医へご紹介下さい。私自身、現在新宿区医師会で在宅ケア介護保険担当理事として名簿作成業務に関わっております。ぜひご活用下さい。

高齢者診療は在宅医療への流れが始まっており、当院もその方向性へとシフトしました。当院の訪問診療ですが、当初は昼休みの1時間を利用、在宅患者が20名を越えたあたりから昼休みだけでは対応できなくなり、現在水曜日午後外来診療、訪問診療に出ています。範囲は、徒歩あるいは自転車圏内という超地域密着型です。このエリアだけでも20名から30名の患者さんがおられ、そうしたニーズに満ちていることを実感します。さらに自宅で亡くなることを希望される方には、できる限り対応するよう心がけています。終末期を自宅で過ごすためには、ご家族と患者本人の明確な意思、それをサポートする医師・看護師・ケアマネなど多職種の連

携が必要で、皆が気持ちをひとつにすることで満足いく良い看取りが可能となります。地域で最期まで患者さんと向き合うことは開業医の仕事として醍醐味を感じます。また、その実現のために国際医療研究センターを始めとする後方病院の存在ほど心強いものはありません。

先代院長の時代より、國土先生、乳腺外科の多田先生にはたいへんお世話になりました。また東大に国内留学した時期に循環器内科の廣井先生と一緒に勉強させて頂きました。縁あって、再び同じ新宿区で地域医療ができることを望外の幸せと感じています。さらに医療連携において連携室の徳原先生との強い協力体制があります。新宿区医師会では毎月1回土曜日、医師会診療所にて摂食嚥下研修会を行っておりますが、耳鼻咽喉科山田先生、リハビリテーション科藤谷先生には多大なご協力を賜り感謝いたします。インフルエンザを始めとする感染症流行の時期には、小児救急において小児科の先生方に何度も助けて頂きました。それ以外の科の先生方とも多くの患者様の診療連携をしています。今後とも地域住民のために良質な医療が提供できることを喜びとして、国際医療研究センターの方々とともに歩んで参りたいと思います。

## 今月の旬菜

### 春キャベツ

## Season of this month



管理栄養士  
趙 蘭奈

キャベツは、1年中出回っていますが、秋(9~11月)に種を蒔き、翌春(3~5月)に収穫される春キャベツは、甘味があり、みずみずしいのが特徴です。

キャベツはビタミンCやビタミンK、ビタミンU、カルシウム、食物繊維のほか、うまみ成分であるグルタミン酸などを含み、生でも加熱しても食べやすい野菜です。ビタミンUは、キャベツから発見されたビタミン様物質で、胃潰瘍や十二指腸潰瘍などの胃腸障害を予防・

改善する働きがあるといわれています。ビタミン類は水に溶けやすく、熱に弱いので、スープにしたり、生のまま食べたりすると効率良くビタミン類を摂取できます。

春キャベツは、葉のまきが柔らかく、緑色が濃く、軽いものを選びましょう。

保存するときは、芯を包丁でくり抜き、水で湿らせたキッチンペーパーなどを詰めてからポリ袋に入れ、芯が下になるようにして冷蔵庫で保存しましょう。

## 春キャベツとツナのオムレツ

●1人分のエネルギー 146kcal、塩分 1.1g

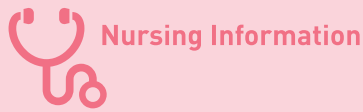
### 材料(4人分)

卵…3個 キャベツ…200g  
ミックスチーズ…40g  
ツナ缶(ノンオイル)…1缶  
塩…小さじ¼  
こしょう…少々  
サラダ油…大さじ1杯  
(ケチャップ等…適量)



### 作り方

- 1 キャベツを千切りにする。
- 2 ボウルに卵を溶きほぐし、キャベツ、ツナ缶、ミックスチーズ、塩、こしょうを加えて混ぜる。
- 3 小さめのフライパンにサラダ油を中火で熱し、2を流し入れる。周りが固まってきたら蓋をして4~5分蒸し焼きにする。
- 4 3を裏返して、同じように蓋をして4~5分蒸し焼きにする。
- 5 食べやすく切り分ける。お好みでケチャップ等かける。



## 感染管理認定看護師の役割

感染管理認定看護師の役割は、患者さん  
とご家族・訪問者はもちろん、現場で働く  
すべての人を感染源から守ることで。感  
染に対するイメージは「こわい」「うつる」  
「近寄りたくない」などマイナスのイメ  
ージを持っている方が多いと思います。現場  
スタッフでも、どう対策をとっていいの  
か分からないことが多くあります。そんな時、  
スタッフの相談を受けて一緒に対策を検討  
しながら、適切な感染対策ができるよう  
な関わりをしています。

感染対策は、1人ではできません。当院  
に勤務しているすべての職員が感染管理に  
関する知識・技術を身につけ、病院全体と  
して患者さんをサポートできる体制を整え  
るため、組織横断的に活動を行っています。

また、患者さんの協力も必要となります。  
特に冬季に流行するインフルエンザやノロ  
ウイルス流行時には、手洗いやマスク着用、  
体調不良時は面会をご遠慮頂くなどご協力  
をお願いすることも役割となります。

私達は、感染を防止し、患者さんへは安  
全な療養環境を、スタッフには安心して働  
ける職場環境になることを目指し、日々活  
動しています。



看護の日には、患者  
さんにも体験してもらいます

## 診療時間・アクセス

**外来診療時間** 8:30~17:15

**初診受付** 紹介状が無い場合 8:30~11:00  
紹介状が有る場合 8:30~14:00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、  
リハビリテーション科の6科および結核（疑いも含む）につい  
ては「11時までの受付」となっています。

**休診日** 土・日・祝日・年末年始

**アクセス** 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅より徒歩5分  
東京メトロ東西線 早稲田駅2番出口より徒歩15分  
JR大久保駅 又は 新大久保駅より都営バス新橋行、  
JR新宿駅西口より都営バス医療センター経由女子医大行  
「国立国際医療研究センター前」下車

**HP** <http://www.ncgm.go.jp/>

